



支社長席



規模拡大、就労環境整備に注力

北信越支社に名称を変更し、体制強化を図った2019年4月に営業部長兼工事部長として着任し、この4月から舵(かじ)取り役に就いた。「いかに(支社の)規模を大きくするかが仕事」と抱

大成ロテック北信越支社長

田村 秀弘氏

負を語る。社員が働きやすい環境の整備にも注力する。「若手社員が良い意見を上げてくれることも多く、社員が話しやすい環境をつくりたい」と話す。

新潟、富山、石川、福井の北陸4県のほか、長野県北部を管轄。管内の市場環境は防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策が始動した一方、民間投資が縮小気味のため、「全体では(事業量が)微減」とみる。

そうした中、公共工事では国やNEXCOの案件に焦点を当てる。民間は「顧客を新規開拓することが命題」と強調し、新設工場の外構工事などを狙う。加えて建築にも意欲を示し、「体制整備と顧客

獲得がこれからの課題」と捉える。

働き方改革に関しては「一人で仕事を抱えずいかに分担できるか」を重視し、上司・部下間の情報共有や支援に力を入れる。生産性向上に向けた現場での情報機器の活用も進んでいる。

また、同社初の中小水力発電事業が新潟県内で動き出す。本業の舗装とは異なる山岳土木だが「ノウハウを蓄積し、無事故で工事を終えて売電できるようにしたい」と力を込める。

1983年3月山梨大工学部卒業後、同年4月大成道路(現大成ロテック)入社。11年在籍した中部支社では30歳ごろに初の国土交通省の現場となるバイパスの拡幅工事を経験。「苦勞もしたが自信が付いた」と当時を振り返る。趣味は海釣り。神奈川県出身、61歳。